

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：富山県 富山市立山室中学校

活動名：道徳教育の推進 ～PDCA サイクルによる授業力向上～

解決すべき課題：

山室中学校の目指す学校像は「明るく、楽しく、活気あふれる学校」である。この学校像に照らして道徳教育推進教師として、どのように道徳の研修を推進していけばよいか。特に、道徳科の授業を苦手としている教師への手立てはどうあるべきか。また、生徒も教師も楽しいと思える授業にするための教材研究の工夫や評価していくための悩み解消へ向けての手立ては何か。

目標・方針：

「特別な教科 道徳」は、教育計画に基づき授業を進めるが免許をもって授業をしているわけではない。学級、学年で悩みを共有し、教材研究を行っていくことで個人への負担が減るのではないかと考えた。本校の道徳実践において PDCA サイクルの「CA」の部分が弱いと考えられる。同じ時間帯に全てのクラスの道徳科の授業があるわけではないので、授業後に課題や授業展開について学年で共有し「CA」の部分を強化したい。そして、その取組を年間指導計画にも生かしていきたい。

活動内容：

- ①月 1 回の教材研究会
- ②生徒・教師への道徳アンケートの実施
- ③内容項目の見える化
- ④ワークシートの統一
- ⑤授業後の教材研究した資料のファイリング

活動の成果：

担任からの声が、「授業をしなければいけない」というものから、「中心発問や構造的板書を考えるのが楽しみになった」というように変化し、意識が高まっていることが伺える。

- ・ 教材研究をした資料をファイリングしたことで、挿絵や写真の再活用、板書計画や中心発問の振り返りができ、次の授業への評価改善につながった。
- ・ ワークシートを統一したことで、ワークシートを準備する時間が減った。ワークシートには、生徒が授業の振り返りを評価するところがあるので、生徒からよい評価が返ってくると教師の意欲向上につながった。

<担任の感想>

- ・ 毎時間の教材研究が、効率的かつ深くできるので授業への負担がかなり減った。
- ・ 中心発問を変えながら道徳科の授業を実践できるので、生徒の反応や考えが多様化し、参考になる。
- ・ 複数で教材研究すると気持ちに余裕ができた。授業後の事後報告も深まりができたと思う。
- ・ 板書計画があるだけでも、授業がしやすいと感じた。
- ・ 授業への抵抗感がなく、以前よりも各段に道徳科の授業が好きになった。
- ・ 一緒に進め方を確認できる時間が一斉にあるのは、とても助かった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・ 一人で教材研究することの不安が解消され、悩み等を気軽に相談することで、道徳科の授業がある度に、

学年の先生同士で会話が増えた。

- ・ 月 1 回の教材研究で、1 か月分の教材研究することができる。また、職員会議や研修会の後に行うことで、特別に時間を設定する研修会を開かなくてもよかった。（活動時間は、1 回 30 分程度）
- ・ 研修を通して、自ら進んで道徳科の授業の教材研究を行う先生が増えた。
- ・ 教材研究する内容を、中心発問だけに絞ったので、負担も少なく継続した活動ができた。

写真 1

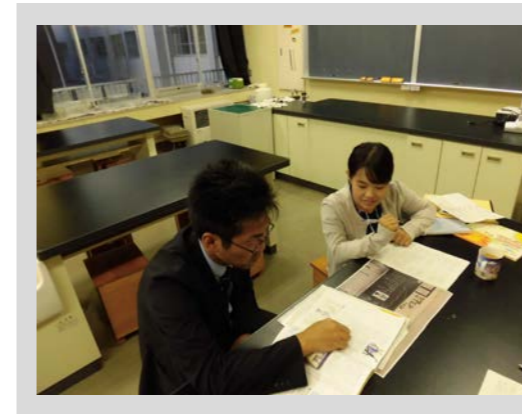


写真 2

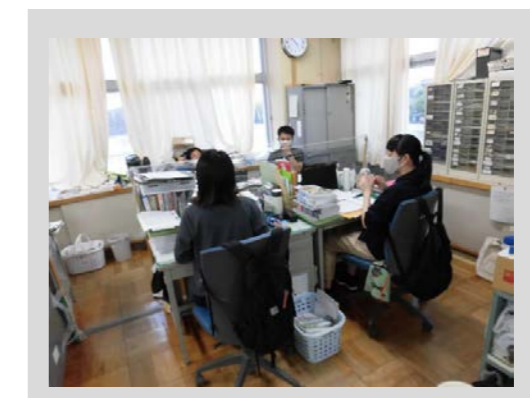
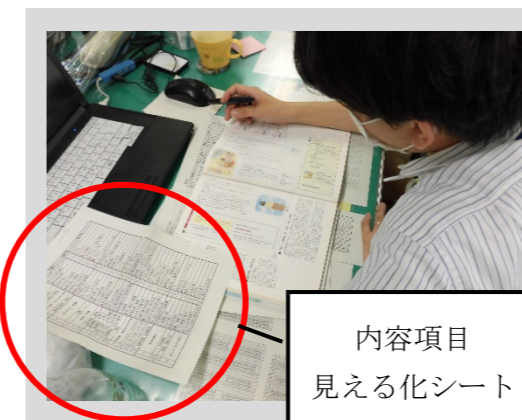
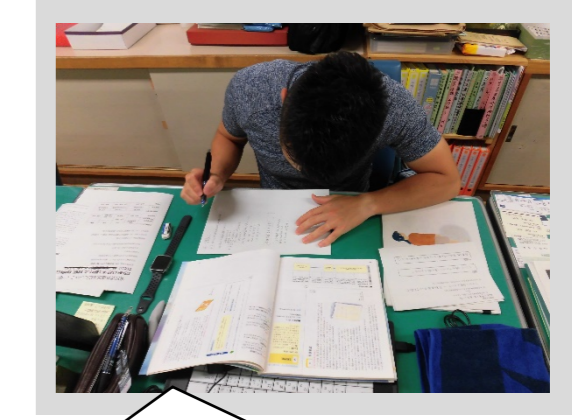


写真 3



内容項目
見える化シート

写真 4



研修を重ねることで自主的に教材研究をする先生も増えました。

アンケート結果（生徒アンケート）

	令和元年 12 月	令和 2 年 6 月	令和 2 年 9 月
楽しい	18.0%	21.6%	22.2%
まあまあ楽しい	47.8%	44.9%	47.0%
あまり楽しくない	24.1%	22.2%	20.0%
楽しくない	10.1%	11.3%	10.8%

